

評価シート2（創エネ・省エネ物語）

流1	バイオマスなどの地域の新エネルギーの利用促進を図る
	■バイオマスエネルギーの活用の拡大 ・生ごみや下水道汚泥によるバイオガス発電とガス利用の多用化 ・廃食用油の燃料化利用 ・農業系残さや剪定枝、枯れ草などの未利用バイオマスの資源化策の調査・検討
	■太陽光や雪エネルギーなどのその他の新エネルギーの利用推進に向けた検討 ・太陽光発電の地域への普及に向けた情報収集の推進 ・雪エネルギー利用の先行事例等の情報収集・研究

流2	地域省エネルギーと温暖化対策の普及推進
	■省エネルギーの推進は自己把握と意識の徹底から ・自らのこれまでのエネルギー消費の実態を把握する ・無駄点検と省エネ意識の向上を図る

	■省エネを設備や技術からアブローチする ・「滝川市地域省エネルギービジョン」の実践推進 省エネ導入に関する基本的知識等の普及 省エネ技術等の情報周知 省エネ先導モデルとしての公共施設での取組実践の推進 効果データの共有により地域へのさらなる普及拡大へ
--	--

	■地域における地球温暖化対策の推進 ・地域における温暖化対策の検討 省エネ法に基づく事業者等に対する省エネ対策の推進 P R エコな移動手段である公共交通機関の利用促進
--	---

登場人物の役割			これまでの取組及び 今後の実施予定の取組 <i>(斜め字)</i>	実施 状況
市民	事業者	行政		
・バイオマスエネルギーへの理解を深める ・生ごみ、廃食用油の適正分別に協力する	・バイオマスエネルギー導入の検討 ・利用可能なバイオマスの種類、賦存量等の調査 ・利用技術等の調査、研究(既存設備を含めて) ・実証試験等の実施	・地域における関係者等の集約 ・国や試験研究機関等との連携強化 ・効率的な回収システム等の検討 ・事業化に向けたコーディネート	・国や関係団体、試験研究機関等との連携構築、有効利用に向けた検討(H16～) ・滝川市バイオマスタウン構想の策定(H18、H19に改訂) ・地域バイオマス燃料に関する検討(H23)	
既存施設の発展的活用も含め、各関係者の連携を図りながら、様々なバイオマス利用の拡大に努める				
・新エネルギーへの理解を深める ・太陽光発電の導入検討 導入に向けた情報収集(支援制度、コストなど)	・新エネルギーの事業化可能性検討 ・新エネルギーの導入拡大に向けた取組 ・低コスト化への研究 ・滝川に適した事業化手法等の研究	・新エネルギーの事業化可能性検討 ・公共施設への太陽光発電の先導的導入 実績データ等の集積・分析 導入促進支援策等の検討 ・雪エネルギー利用に関する情報収集 ・国の支援制度等に関する情報収集	・新エネルギー教室、燃料電池教室開催など(H18以前～) ・庁舎への太陽光発電設備の導入(H22) ・民間事業者への事業支援体制の構築(H23～)	
新エネルギーの導入推進に向けて、国の支援制度等を活用しながら、官民連携を語りながら取組を推進する				

・省エネライフへの転換の促進 ・環境家計簿によってエネルギー消費の実態把握 ・家族で省エネ実践(すぐ出来る対策から) ・エコドライブ実践や公共交通機関の利用 ・クールビズ、ウォームビズの実践 など	・省エネ法に基づくエネルギー管理の徹底 ・自事業所の消費エネルギーの内容を把握する ・年平均1％削減をめざすための対策検討 ・従業員の意識向上などソフト面からの対策検討 エコドライブ研修会など	・省エネの実践及びサポート ・省エネモニターの普及 ・公共施設での省エネの先導的実践 ・具体的な省エネ対策の提示 ・公共交通機関の利用促進対策	・省エネモニターの実施(H19～) ・地域公共交通活性化協議会の開催(H20～) ・滝川市地域省エネルギービジョンの策定(H21～H22) ・庁舎への高効率タイプ照明器具の導入(H22) ・バス利用促進キャンペーンの実施(H22)	
エネルギーの使用実態を把握した上で、必要のないエネルギー消費の削減のための意識付けからスタート！				

住宅、家電、自動車などの省エネ対策の導入検討 ・省エネに関する基本的知識の習得、情報収集 ・エコカーやエコ家電等の導入検討 ・住宅の増改築等に際しての省エネ対策の検討 ・導入効果等の検証記録(→環境家計簿への反映)	・事業所における省エネ設備等の導入検討 (一般事業者) ・専門機関等による省エネ診断の実施 ・省エネ設備等の導入検討、ESCO事業の検討 ・導入実践 ・取組効果の把握 ・省エネ設備等の普及促進 (省エネ製品・設備等関連事業者) ・消費者やユーザーへの P R 方策の改善 ・業界や異業種等の連携による P R イベント実施 ・公共施設等での実証導入による効果の数値化 ・製品への省エネ性能等明示のルール化など ・家庭や事業所への積極的な営業活動の展開	・省エネ対策導入支援の推進 ・省エネに関する情報等の普及 ・公共施設での先導的導入検討 ・効果の見える化の推進 ・経済性を含めた効果等の P R ・民間による製品や技術等の P R 支援	・燃料電池自動車などのエコカー試乗会(H21) ・出前省エネ講座の開催(H22～) ・滝川市地域温暖化対策実行計画の策定(H21) ・庁舎への高効率タイプ照明器具の導入(H22) ・庁舎への太陽光発電パネル設置(H22) ・省エネレシビの制作・配付(H23) ・民間企業等における省エネ型製品等の情報収集及びその普及(H23～)	
それぞれが実践を積み重ね、省エネ・新エネに関するデータ等を共有しながら、地域への普及を推進する				

・温暖化問題に対する理解を深める ・公共交通機関の積極的な利用	・温暖化問題に対する事業者としての責務の遂行 ・温室効果ガス排出に係る現状分析 ・公共交通機関の利用促進に向けた取組の推進 ・電気自動車等のエコカー導入に向けた検討 ・温暖化対策を軸とした事業者間連携構築	・地球温暖化対策対策の率先推進と情報の普及 ・温暖化対策に関する情報収集、提供 ・地域の先導役としての方策の提示 ・公共交通機関の利用促進対策の実施	・省エネモニターの実施(H20～) ・地域公共交通活性化協議会の開催(H20～) ・滝川市地域省エネルギービジョンの策定(H21～22) ・滝川市地域温暖化対策実行計画の策定(H21) ・庁舎への高効率タイプ照明器具の導入(H22) ・庁舎への太陽光発電パネル設置(H22) ・バス利用促進キャンペーンの実施(H22) ・省エネレシビの制作・配付(H23)	
温暖化問題への関心を高め、地域や個別ごとに実践できる温暖化対策を検討、実践する				

【実施状況欄】

A:十分な取組が行われている B:取組が行われているものの、今後の推進が望まれる C:取組が行われているが、今後、方向性を変えるなど事業の再検討が必要 D:取組が進んでおらず、検討が必要

評価シート3 （農・山・川物語）

場1	「農」環境の保全と環境資源の持続的な活用物語
●クリーン農業の推進による環境保全と生産システムに係る信頼の確立	
・適正な施肥と防除により、化学肥料、農薬の使用抑制を進める	
・各種認証制度の活用により、クリーン農産物の差別化とブランド化を促進	
・クリーン農産物を媒介した地域活性化	
・クリーン農産物を支える生産、流通、消費システムの構築	
●安全・安心のニーズに応える農産物供給システムの構築と地産地消の推進	
・農産物の安全・安心をデータとして、生産履歴を表示	
・地場農産物のカタログ化	
・農産物の生産現場を体験する消費者交流や教育現場への体験学習の導入	
・家庭や学校等における安全・安心農産物による食育の推進	
・都市・農村の交流促進と歩いて楽しむ農地の散策路づくり	

場2	「山・森」環境の保全と環境資源の持続的な活用物語
●山がはくむ「水・土・森」の保全と育成	
・山の水脈を包む流域の森林生態系を保全	
・計画的な造林・保育・間伐などの施策	
・「石狩川ルネサンスの森」の育樹（植樹・管理）を協働で進める	
●居住空間における緑の保全と量の拡大	
・街路樹など街なかの緑を協働で保全	
・個々の緑のボリュームアップと質の向上	
●森林と人との共生、交流を進め、森林の多様な機能についての理解を深める	
・森林の生物調査や自然生態系調査を市民参加で実施	
・森林浴や自然体験活動の実施と、自然ガイドの育成強化	
・そらぶちキッズキャンプの整備と、森林生態系体験のフィールドづくり	
・歩いて楽しむ森の散策路づくり	

場3	水の流域環境と物質循環を持続的に支える河川環境の物語
●河川の自然生態系を再生する物語のシナリオを描く	
・水質浄化や河川流域清掃作戦のプログラムづくりと市民の参加	
・水質や水量、生物生態、植生など多様な調査データを整備	
・河川流域で生活する人や土地利用の状況を調べて流域マップに集約	
・河川環境の保全と活用についてのシナリオづくりを市民・行政の協働で推進	
●水辺のふれあい活動を広め、活動の拠点づくりを進める	
・流域の水辺再発見プロジェクトを実践	
・水辺の環境観察・調査活動への参加と水辺のガイド役を養成	
・水辺の体験学習プログラムの開発と参加の拡大	
・水辺の植樹や動植物の生息空間整備など自然環境再生活動の展開と市民参加	
・水辺の活動拠点「サポートセンター」の設置と拠点化	

登場人物の役割			これまでの取組及び 今後の実施予定の取組【斜め字】	実施 状況
市民	事業者（農業者、流通事業者等を含む）	行政		
・減農薬・無農薬等の農業理解を深める ・店舗の農産物など商品理解を深める ・生産地との交流事業に参加する ・安全安心な食への関心を高める	・減農薬、減化学肥料など認証取得に努力 ・減農薬・減化学肥料のブランド化を推進 ・トレーサビリティなどの情報提供を徹底 ・品質の確かさをPR	・認証制度の広報展開や情報提供 ・地場産品の認証状況について情報提供 ・農産物についての基礎的知識の普及 ・クリーン農業への支援拡大	・減農薬米への支援推進 ・地産地消イベントの開催（H21） ・滝川地産地消ふるさとづくり協議会の設立 →地産地消認定店精度の創設（H22）	
クリーン農業推進の意義を地域の生産者とともに消費者とともに理解を深めながら、さらなる普及拡大を推進する				
・地場食材を使った調理の工夫 ・生産履歴表示の活用術を習得 ・地場食材の食べ比べ ・食生活や調理工夫の交流体験学習 ・食材の生産地を訪ねるミニツアーの実施 ・農地の散策や生産者との交流	・地場食材の特性を活かした外食産業 ・地場食材の活用方法を積極PR ・地場食材の特長を活かしたレシピ開発 ・農地見学を受け入れる体制の整備 ・農地めぐり散策路の整備	・学校や社会教育における食育の啓発 ・地場食材の情報提供 ・消費者と生産者の交流機会の創出・運営 ・教育カリキュラムへの農業体験の導入拡大 ・学校給食を通じての地場産農作物への理解向上	・親子農業体験塾（H18以前） ・地産地消交流給食（H18以前） ・減農薬米の販売（H18以前） ・滝川産サタネ油の生産及びブランド力の向上への支援（H19） ・地場農産物販売拡大事業（H20） ・学校における農業体験授業の推進（H23～）	
地域の農産物の価値を見直し、生産者と消費者が信頼でつながる生産・流通システムの構築を図るとともに、地域産品を積極的に消費する				

・森林の生態系を学ぶ活動に参加する		・森林管理を市民ボランティアに開放する		・森林の生態系に関する情報の提供		・石狩川ルネサンスの森植樹祭(H13～) ・石狩川再生の森整備(H15～) ・北海道植樹祭の開催(H18)	
↓森林保育の協働活動を組み立てる		↓所有森林の利用を市民に幅広く開放する ・森林の管理を協働で進める仕組みを準備		↓森林保育の協働の場づくり			
山や森の保全について関心を高めてもらうための取組を進める							
・居住空間の緑保全に協力する		・緑の拡大などに協力する		・協働の仕組みを整える		・農地・水・環境保全向上対策事業(H19～H23)	
↓緑の必要性について理解を深める		↓事業所の緑化などに努める		↓住民理解を深める			
・緑の維持管理に協力する		・緑の維持、拡大に協力する		・協働の仕組みを構築する			
身の回りの緑について改めて考える機会を創出し、緑のあり方を議論していく							
・森林の多様な機能を調べる活動に参加		・事業所としての協力、参加		・森林の多様な機能に関する情報提供		・滝川遊学会事業における自然体験 ・そらぶちキッズキャンプ実現化支援(H18以前)	
↓市民調査活動の組織化と運営				↓市民調査活動への支援			
↓自然ガイドの市民グループ形成				↓公共林への調査活動の支援			
↓自然観察体験の普及				↓森の散策路の整備			
↓森の中の散策路の整備に参加				↓森のかがく活動センターの場の提供			
自然とのふれ合いを促し、自然との共生についてともに考える機会を増やす							

・川辺の清掃活動の実践 ↓ 河川の動植物や植生調査 ↓ 流域の土地利用や生活状況調べ ↓ 改善アイデアとりまとめと課題抽出	・ 河川への排水経路の点検 ↓ 従業員に対する市民活動参加の啓発	・ 河川管理者と連携して河川情報を提供 ↓ 河川環境の市民調査に対して支援	まちづくり・川づくり協議会の活動推進支援(H18以前)	
河川とのふれ合いを通じてその良さや価値を再発見する				
・水辺の親水活動への参加 ↓ 参加したい親水活動の機会創出 ↓ 動植物の生息空間を作る実践活動 ↓ 水辺の環境を学ぶ体験プログラム作成 ↓ 親水活動の指導者の育成	・ 親水活動をサポートするビジネス起業 ↓ ニーズの把握と新しいプログラム開発 ↓ 自然ガイドのプロ化	・ 活動の場の整備と提供 ↓ 活動空間に関する情報の整備と提供 ↓ 自然ガイドの派遣 ↓ 活動拠点の場の提供	まちづくり・川づくり協議会の活動推進支援(H18以前)	
川づくりの活動拠点づくりと人材育成を推進する				

【実施状況欄】

A: 十分な取組が行われている B: 取組が行われているものの、今後の推進が望まれる C: 取組が行われているが、今後、方向性を変えるなど事業の再検討が必要 D: 取組が進んでおらず、検討が必要

評価シート4（人の環づくり物語）

環 1	人の環をつくるための情報が集う場をつくる
	■エコネット(関連情報集約のためのネットワーク)の設置 ・インターネットを活用し、情報と連絡体制の共有、活性化を図る ・環境を軸とした市民やグループなどのネットワークの核とする ・滝川の環境に関する情報を網羅する

環 2	体験を通じて学ぶ現場学習の推進
	■環境学習リーダーを核に環境に関心を持つ市民の環を広げる ・民間との連携で様々な体験を通じて環境学習リーダーの育成を図る ・環境学習リーダー同士の交流、発表機会等の創出 ・外部講師や地元の人材を積極的に活用した講座等の実施

	■環境学習の多様な展開により、環境意識を向上させる ・地域、学校、職場、市民グループの環境学習への対応 →地域の人材や事業所のエキスパート等を活用した講師派遣のしくみづくり ・学校教育プログラムとの連携 ・民間団体、事業所等のイベント等との連携による学習提供機会の拡大
--	---

環 3	人々の交流が「人の環」を形成し、物語を次のステージに押し上げる
	■市民・事業者・行政の環を形成する ・情報を幅広く市民が共有し、参加の機会を広げる環境市民大会の開催

たきかわ「環のまち」物語は、次のステージに引き継がれる・・・

登場人物の役割			これまでの取組及び 今後の実施予定の取組 <i>(斜め字)</i>	実施 状況
市民(団体を含む)	事業者	行政		
・エコネットへの参加・利用	・エコネットへの参加・利用	・エコネットの構築・運営	・たきかわエコネットの運用開始(H23～)	
↓ 自分たちの情報を登録する	↓ 自分たちの情報を登録する	↓ 情報の集約・仲介のしくみの整備		
↓ 自分たちの欲しい情報を探す	↓ 自分たちの欲しい情報を探す	↓ 提供サービス内容の検討		
↓ 連携や協力を呼びかける	↓ 連携や協力を呼びかける	↓ たきかわエコネットの構築・運営		
↓ 連携や協力の求めに応じる	↓ 連携や協力の求めに応じる	↓ →人の環のベースづくりのサポート		
エコネットを滝川の環境情報の集積の場として活用することで、人や団体、事業者等の相互連携を促す				

・環境学習リーダー育成プログラムに参加	・環境学習リーダー育成プログラムに協力	・環境学習リーダー育成プログラム作成	・環境学習リーダー養成講座の開催(H18～)	
↓ プログラムに参加する	↓ 現場視察対応や情報提供などで参画	↓ プログラムの構築		
↓ 環境に興味を持ち、積極的に学び始める	↓ 自社の取組等をPR	↓ 団体や事業者等との連携構築による内容工夫		
↓ 周りの人も一緒にみんなで環境に興味をもつ	●市民との接点の拡大	↓ 環境学習リーダーの活動の場の創出		
●環境を軸とした人の環の創出		●核となる人材の育成		
環境学習リーダーの育成を通じて人材の核づくりを行う				

・団体(個人)の得意分野を活かした貢献活動	・企業の得意分野を活かした貢献活動	・民間の人材等の活用システムの構築	・たきかわエコネットの運用開始(H23～)	
↓ 団体(個人)として講師リストに登録	↓ 現場視察対応や情報提供などで参画	↓ 団体や事業者からの情報収集		
↓ 団体(個人)は講師として出動	↓ 環境イベントなどを行政と連携して開催	↓ 相互連携による内容の充実		
	↓ 環境貢献活動などの市民や行政と連携			
学びの場を増やし、知識や経験、情報を共有するための機会を増やす				

●協働で環境市民大会の企画・準備・運営	・環境市民大会の準備・運営に協力	●協働で環境市民大会の企画・準備・運営	・たきかわエコネットを活かしたイベントづくり(H23～)	
↓	↓	↓		
個人・団体・事業者等が互いに意見を交換しながら、また新たな展開をめざし、次のステップへ				

【実施状況欄】

A:十分な取組が行われている B:取組が行われているものの、今後の推進が望まれる C:取組が行われているが、今後、方向性を変えるなど事業の再検討が必要 D:取組が進んでおらず、検討が必要